

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170200802		
法人名	有限会社 篠路愛護苑		
事業所名	グループホーム からまつ 1階ユニット		
所在地	札幌市北区拓北4条3丁目10-17		
自己評価作成日	令和5年2月1日	評価結果市町村受理日	令和5年3月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0170200802-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

令和元年10月に篠路から拓北へ移転しました。同時に、1ユニットから2ユニットへ増床され入居者様は新しい施設で毎日楽しく穏やかに過ごされています。立地は閑静な住宅街にあり、近隣にはさくら公園をはじめ小さな公園が5ヶ所と、散策や日光浴に適した拓北公園や桜が綺麗ないきいき公園があり、緑も多く地域と共に生活が送れる環境にあります。施設内には明るい日差しが入り、入居者様はカルタや飾り作りを楽しまれたり、日常の洗濯物たたみや茶碗拭きをされるなど今までの生活を出来るだけ継続して行えるように支援させていただいております。職員は定期的に介護について学ぶ機会があり、社内には働きながら資格が取れるキャリアアップ制度も完備されている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR拓北駅から徒歩5分程の住宅地にある2階建て2ユニットのグループホームである。周辺には大小の公園が多くあり、気軽に散歩を楽しめる環境となっている。数年前に建物を移転新築し、広い共用空間を中心に開放的で明るい造りである。エレベーターや空調など各種の設備が整い、昭和レトロの装飾を施して利用者が懐かしさを感じる事ができる。新築にあたって地域交流室を用意しており、感染症の流行によりまだ活用できていないが、今後の地域交流の拠点として役立てる意向を持っている。職員が利用者に明るく接し、家族への対応も丁寧である。毎日の申し送りを重点的に行い、職員同士のコミュニケーションを十分に取っている。ケアマネジメントの面では、個々の生活歴や趣味・嗜好などをしっかりと把握し、日々の支援に役立っている。特に、利用者がプライドを持って携わっていた昔の仕事の話などを良く傾聴している。介護計画を見直しする際は、項目ごとに詳しく評価を行い、次の計画に適切に反映している。食事の面では、通常のメニューに他に畑でとれた野菜を加えたり、手作りのおやつを利用者も一緒に作って楽しんでいる。今後、感染症が落ち着けば、地域交流や外食、外出行事などの楽しみごとを充実させたい意向を持っている。快適な環境と行き届いた支援のもと、安心して生活できるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所と各階ユニット通路に理念を掲示し、職員全体で地域密着サービスへの理解と、実践に繋がれるように努めている。	事業所独自の理念の中で「地域や自然と触れ合い、関りをもって、ゆっくりのんびり自分らしく過ごす」という内容を掲げている。理念を共用部分に掲示し、職員の理解を促している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、回覧板など地域と交流する機会がある。コロナ渦の影響により、地域の行事等には参加できていないが、現在書面ではあるが地域運営推進会議で参加者から意見をいただく機会を設けている。	建物移転時に地域交流室を設け、地域との関わりを充実させる方針であったが、感染症の流行により交流はできていない。感染症が落ち着いたら地域行事に参加したり、子供たちやボランティアとの交流を行いたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談時など、認知症介護についての相談を受けたときはアドバイスを行っている。また、ご家族からの介護保険制度について不明な点があればご説明している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、現在は新型コロナウイルス感染予防のため書面開催としている。行事報告やホームでの出来事、職員状況などを報告している。また、事前に参加予定者より地域への発信資料をお預かりしご家族へお送りするなど、架け橋となっている。	地域包括支援センター、町内会長、全家族がメンバーとなり、2か月ごとに書面による会議を開催している。議事録など送る際に、参加者に意見を募っている。以前は計画的にテーマを設定していたが、最近では報告事項が中心となっている。	計画的にテーマを設けての会議の開催を期待したい。意見が出やすくなるよう、テーマに沿った簡単な資料を用意することも期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告を行い、登録変更などで不明点を相談したり毎月の空室状況の報告を行っている。それぞれの担当者と連携し協力関係づくりに努めている。	市役所には、感染症対策、事故対策などの相談をしている。区役所には介護保険に関する書類の作成について相談している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1度、身体拘束についての勉強会の開催と6ヶ月に1度の研修会後には学んだことを業務に活かせるようレポートの提出をし職員全員が意識している。また、日々の支援の中で困難事例がある場合には、都度検討し合っている。	身体拘束を行っておらず、3か月ごとの不適切ケア防止委員会と、半年ごとの内部研修を行っている。新人職員には別途、身体拘束に関する研修がある。玄関は日中も施錠しているが利用者でも簡単に開けられる鍵であり、閉塞感を感じないよう配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月に1度の勉強会、6ヶ月に1度の研修会を実施し、内容について再確認を行っている。また、日々のケースの中で気になる点など職員全員がお互いに声を掛け合い虐待防止に努めている。		

グループホーム からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を利用されている方はおらず、携わる機会がないため、後見制度についてカンファレンスなどで学ぶ機会を今後設けていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、できるだけ不明な点を質問しやすい雰囲気作りを心がけ、コミュニケーションを交えながら説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にご家族とお話する時間を設け、ご意見などを伺えるよう心掛けている。また、定期的に書面でご意見を募り、改善とフィードバックに努めている。	家族には、運営推進会議で書面で意見をもらうほか、来訪時や電話をした際に意見を聞いている。家族の意見をもとに支援内容を変更した例もある。新たに事業所のブログを開設し、家族が利用者の様子を見られるようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談等で、職員が意見を言いやすい雰囲気作りを努めている。また、受けた意見・要望については役職者と共有し連携して改善に努めている。	毎朝の申し送り時や随時のカンファレンスの際に職員が活発に意見交換している。管理者と職員の面談を必要に応じて行っている。室内装飾、レクリエーション、備品の発注などを職員が分担している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は現場職員の意見に耳を傾け、必要があれば説明や助言を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながら学べる資格取得制度も設置されている。定期的に事業所ごとの勉強会の開催を行うよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	教員講習会にて全国の介護従事者との意見交換やネットワークを構築することが出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談で、ご本人やご家族の想いを傾聴し、更にご家族や関係機関から情報をいただきアセスメント出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学や面談でご家族が話しやすい雰囲気づくりに努めている。さらに、ご家族の要望にどのような支援が行えるか丁寧に説明するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の段階で出来る限りご本人とご家族の意向や困っていることを伺い、多職種と連携しサービス開始の支援内容を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の残存能力を見極め、日々の生活の中で出来る事はご自分で継続して出来るように支援を行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス感染防止対策で面会などの制限があるが、日々の様子を電話など活用しご家族を感じる機会を作れるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ渦で以前に比べ面会に制限はあるが、面会場所を設け関係が途切れないように支援している。	3名ほどの利用者に親戚が来訪している。利用者宛のハガキが来た際は取り次ぎ、返事作成の希望があれば支援する用意がある。感染症流行により馴染みの場所への外出が難しいが、受診帰りに見慣れた風景を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性や個人個人の個性を把握して、コミュニケーションのサポートを心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要な情報提供を行ったり、退去後もご家族などからの相談があれば支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の日々の様子や状態、訴えなどをモニタリングし、ご本人の想いに添えるようにアセスメントを行っている。	半分以上の利用者は言葉で思いや意向を表出でき、難しい場合も表情や仕草で把握している。フェイスシートに生活歴を記し、センター方式のB-3シートに興味や嗜好を記載して共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談で、ご家族や関係機関より入居するまでの生活の経緯や情報をお聞きし、出来る限り馴染みの生活を継続できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調、表情、訴えを観察し、一日の過ごし方をその方の状況に応じて支援内容を検討している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	決められた期間毎に評価を行い、訪問診療や訪問看護からの情報、日々の様子や面会時の様子なども参考にして介護計画を作成している。	介護計画を6か月で見直ししている。モニタリング記録表と評価表を作成し、次の計画に反映している。タブレット端末で日々の記録を作成しており、今後はシステム上の「種別」欄を使って目標項目に沿って支援内容などを記載する意向である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的にモニタリングを行っている。また、日々職員が気付いた事など情報を共有し支援に活かせるよう、アセスメントや見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ渦により、慎重な対応をせざるを得ない場合が多いが、要望があれば馴染みの医療機関への通院が出来る。また、制限はあるが面会も可能となっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域在住の職員もおり、町内会へ加入する等、地域の情報把握に努めている。施設内には地域の方と関われる交流室があるが、コロナ渦により活用出来ていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人またはご家族が自由に選択できる環境にあり、希望があれば往診へ切り替えるための対応も行っている。	ほとんどの利用者が協力医による月2回の往診を受け、1名は元々のかかりつけ医を家族の送迎で受診している。往診分は一覧表の往診記録を作成し、その他はパソコン上に受診内容を記載している。	

グループホーム からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度訪問看護があり、健康状態や排便状況等を報告し適切な処置の方法を指導していただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	介護添書やサマリーを利用し、多職種との情報共有と連携に努め、入院時や退院してからも入居者が安心して生活し続けられるように支援している。また、医療機関との信頼関係も十分に構築されている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居相談時や入居時に重度化した際の対応について説明し、指針について同意を得ている。また、状況に応じご家族を含めた多職種との連携を図り、相談しながら今後の支援を検討し支援している。	利用開始時に「ご利用者が重度化した場合の対応に係る指針」を説明し、同意の署名捺印を得ている。現状は事業所での看取りが難しい旨を説明し、同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急事対応マニュアルを使用し、定期的に緊急事への対応についての勉強会を開催している。また、日頃から提携医療機関や各主治医と情報を共有し、緊急事に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的実施しており、全職員が速やかに対応できるように努めている。また、感染症の状況を考慮しながら、避難訓練に地域の方へ参加を呼びかけていく予定。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施している。感染症流行のため、最近は消防の指導や住民参加が得られていない。職員の救急救命訓練も実施後年数が経過している。地震の初期対応や危険箇所を確認を定期的に行う予定である。	感染症の状況を見ながら、災害時における地域との協力体制の再構築を期待したい。また、救急救命訓練について、実際の講習受講やビデオ学習など計画的に取り組むことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に入居者様の尊厳や自尊心、羞恥心を考え入居者様と接するように努めている。また、その方の人格や価値観、これまでの生活感を尊重した対応を心掛けている。	定期的に接遇マナー研修を実施している。昔の活躍していたころの様子を傾聴し、尊厳や自尊心を尊重するよう心がけている。申し送り時は名前が聞こえないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別カンファレンスを行い、自己決定や自律につながる声かけ・アプローチをどのように行ったら良いか検討し支援に活かしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限りその方その方のペースに合わせた支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る服をご本人と一緒に選んだり、可能な方は整髪はご本人自身で行われています。ご自分で行え根井方にも、鏡を見ていただきながら整髪介助を行っている。例年、2ヶ月に1回の訪問理美容を利用している。		

グループホーム からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行事などで季節を感じられる食事を提供したり、食器拭きやテーブル拭き等、入居者様と一緒にしている。	会社本部作成のメニューにそって食材が届き、施設内で調理している。片付けなどを利用者が一緒にしている。おやつを楽しみにしている利用者が多く手作りのおやつも予定している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは栄養士が考えた物を提供している。個々の状態に合わせて量の調整や大きさを工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。出来るところをご本人に行っていただき、必要な部分はお手伝いしている。必要時には歯科医師による往診がある。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、その方の排泄パターンをアセスメントし訴えの少ない入居者様へは時間を決めて声かけ、誘導を行っている。	パソコンの記録と手書きの排泄チェックシートにより排泄パターンを把握し、さりげないトイレ誘導を心がけている。トイレには前傾姿勢のとれる手すりも設置している。広いトイレのため車いすの場合も利用しやすいよう環境整備している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の水分量を記入し把握出来るようにしている。日常の中にラジオ体操や足上げ運動を取り入れ、歩行運動等も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限り入居者様の希望に添った入浴支援を行っている。入浴剤を使用するなど、リフレッシュ出来る環境を作っている。	午前中心に毎日入浴出来るようにしており、一人週2回は入浴している。車いすの場合もシャワーチェアを使用し2人体制で湯船に入れるようにしている。入浴剤やゆず湯等を準備し楽しむ事ができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの就寝環境に合わせ、照明や温度を調整している。眠れないと不安を訴える入居者様には医療機関に相談し連携を取っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を職員全員が共有出来るようにしている。また、服薬時には見守りをしっかりと行うとともに、服薬マニュアルに沿って誤薬防止に努めておる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様とのコミュニケーションの時間を設けるようにつとめている。毎食後の茶碗拭きや洗濯物たたみをお願いすることにより、入居者様から積極的に作業を行ってくださるようになっていく。		

グループホーム からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染防止対策で外出は制限されているが、車椅子の方も希望があれば建物内を案内したり、他階に行き来出来る支援が出来ている。暖かい日には外へ出て日光浴へお連れ出来るように努めている。	感染症流行により以前のような外出が出来ない状況であるが、検査受診時には車窓から景色を楽しめるようにしている。駐車場にトマトやキュウリを植え様子を見たり収穫するなど外気に触れる機会を作っている。感染症収束後は花見やショッピングモールでの買い物等を再開する予定である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はご自分でお金を管理可能な入居者様はいないが、可能な方は所持していただく事は可能である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば対応している。また、ご家族や友人から届いた手紙などご本人へ手渡しし、いつでも見れる居室などに展示している。また、個人携帯電話を持参されている方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部に作成したディスプレイ等で季節を感じられる展示や、設えをし華やかで心地よい空間作りに努めている。また、浴室と脱衣所の温度差に注意するなど、気を配るように努めている。	南向きの大きな窓があり明るく清潔感のある居間である。駐車場で育てている野菜類の成長が眺められるようになっており、収穫のために外に出ることもある。空調やパネルヒーターが整備され快適に過ごせるようになっている。昭和時代の写真を掲示し昔を懐かしく思い出せる工夫もある。手作りの装飾により季節感を感じ取れる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その方の相性を把握することにより、席を工夫している。また、共用部には利用者様が気分転換が出来るように、テレビを視たり新聞が読める場所を確保している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室には馴染みの家具や小物、御家族の写真を置く等して、入居者様が安心できる環境作りを行っている。	電動介護用ベッドとクローゼットが備え付けられている。自宅から持参したテレビや家具など馴染みの環境を作り居心地よく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部にはカレンダーや時計、トイレや居室前には迷わぬように表示を設けるなど、工夫をしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170200802		
法人名	有限会社 篠路愛護苑		
事業所名	グループホーム からまつ 2階ユニット		
所在地	札幌市北区拓北4条3丁目10-17		
自己評価作成日	令和5年2月1日	評価結果市町村受理日	令和5年3月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0170200802-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

令和元年10月に篠路から拓北へ移転しました。同時に、1ユニットから2ユニットへ増床され入居者様は新しい施設で毎日楽しく穏やかに過ごされています。立地は閑静な住宅街にあり、近隣にはさくら公園をはじめ小さな公園が5ヶ所と、散歩や日光浴に適した拓北公園や桜が綺麗ないきいき公園があり、緑も多く地域と共に生活が送れる環境にあります。施設内には明るい日差しが入り、入居者様はカルタや飾り作りを楽しまれたり、日常の洗濯物たたみや茶碗拭きをされるなど今までの生活を出来るだけ継続して行えるように支援させていただいております。職員は定期的に介護について学ぶ機会があり、社内には働きながら資格が取れるキャリアアップ制度も完備されている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所と各階ユニット通路に理念を掲示し、職員全体で地域密着サービスへの理解と、実践に繋がられるように努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、回覧板など地域と交流する機会がある。コロナ渦の影響により、地域の行事等には参加できていないが、現在書面ではあるが地域運営推進会議で参加者から意見をいただく機会を設けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談時など、認知症介護についての相談を受けたときはアドバイスを行っている。また、ご家族からの介護保険制度について不明点があればご説明している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、現在は新型コロナウイルス感染予防のため書面開催としている。行事報告やホームでの出来事、職員状況などを報告している。また、事前に参加予定者より地域への発信資料をお預かりしご家族へお送りするなど、架け橋となっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故報告を行い、登録変更などで不明点を相談したり毎月の空室状況の報告を行っている。それぞれの担当者と連携し協力関係づくりに動めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1度、身体拘束についての勉強会の開催と6ヶ月に1度の研修会後には学んだことを業務に活かせるようレポートの提出をし職員全員が意識している。また、日々の支援の中で困難事例がある場合には、都度検討し合っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月に1度の勉強会、6ヶ月に1度の研修会を実施し、内容について再確認を行っている。また、日々のケースの中で気になる点など職員全員がお互いに声を掛け合い虐待防止に努めている。		

グループホーム からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を利用されている方はおらず、携わる機会がないため、後見制度についてカンファレンスなどで学ぶ機会を今後設けていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、できるだけ不明な点を質問しやすい雰囲気作りを心がけ、コミュニケーションを交えながら説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にご家族とお話する時間を設け、ご意見などを伺えるよう心掛けている。また、定期的に書面でご意見を募り、改善とフィードバックに努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談等で、職員が意見を言いやすい雰囲気作りに努めている。また、受けた意見・要望については役職者と共有し連携して改善に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は現場職員の意見に耳を傾け、必要があれば説明や助言を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながら学べる資格取得制度も設置されている。定期的に事業所ごとの勉強会の開催を行うよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	教員講習会にて全国の介護従事者との意見交換やネットワークを構築することが出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談で、ご本人やご家族の想いを傾聴し、更にご家族や関係機関から情報をいただきアセスメント出来るように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学や面談でご家族が話しやすい雰囲気づくりに努めている。さらに、ご家族の要望にどのような支援が行えるか丁寧に説明するように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の段階で出来る限りご本人とご家族の意向や困っていることを伺い、多職種と連携しサービス開始の支援内容を検討している。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の残存能力を見極め、日々の生活の中で出来る事はご自分で継続して出来るように支援を行っている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス感染防止対策で面会などの制限があるが、日々の様子を電話など活用しご家族を感じる機会を作れるように努めている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ渦で以前に比べ面会に制限はあるが、面会場所を設け関係が途切れないように支援している。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性や個人個人の個性を把握して、コミュニケーションのサポートを心がけている。			

グループホーム からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要な情報提供を行ったり、退去後もご家族などからの相談があれば支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の日々の様子や状態、訴えなどをモニタリングし、ご本人の想いに添えるようにアセスメントを行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談で、ご家族や関係機関より入居するまでの生活の経緯や情報をお聞きし、出来る限り馴染みの生活を継続できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調、表情、訴えを観察し、一日の過ごし方をその方の状況に応じて支援内容を検討している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	決められた期間毎に評価を行い、訪問診療や訪問看護からの情報、日々の様子や面会時の様子なども参考にして介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的にモニタリングを行っている。また、日々職員が気付いた事など情報を共有し支援に活かせるよう、アセスメントや見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ渦により、慎重な対応をせざるを得ない場合が多いが、要望があれば馴染みの医療機関への通院が出来る。また、制限はあるが面会も可能となっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域在住の職員もおり、町内会へ加入する等、地域の情報把握に努めている。施設内には地域の方と関われる交流室があるが、コロナ渦により活用出来ていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人またはご家族が自由に選択できる環境にあり、希望があれば往診へ切り替えるための対応も行っている。		

グループホーム からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度訪問看護があり、健康状態や排便状況等を報告し適切な処置の方法を指導していただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	介護添書やサマリーを利用し、多職種との情報共有と連携に努め、入院時や退院してからも入居者が安心して生活し続けられるように支援している。また、医療機関との信頼関係も十分に構築されている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居相談時や入居時に重度化した際の対応について説明し、指針について同意を得ている。また、状況に応じご家族を含めた多職種との連携を図り、相談しながら今後の支援を検討し支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急事対応マニュアルを使用し、定期的に緊急事への対応についての勉強会を開催している。また、日頃から提携医療機関や各主治医と情報を共有し、緊急事に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的実施しており、全職員が速やかに対応できるように努めている。また、感染症の状況を考慮しながら、避難訓練に地域の方へ参加を呼びかけていく予定。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に入居者様の尊厳や自尊心、羞恥心を考え入居者様と接するように努めている。また、その方の人格や価値観、これまでの生活感を尊重した対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別カンファレンスを行い、自己決定や自律につながる声かけ・アプローチをどのように行ったら良いか検討し支援に活かしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の体調やペースに合わせ、過ごしていただけるように強引な声掛けはせず、少し時間をおいて誘導するなど工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る服をご本人と一緒に選んだり、毎日同じ服を強く希望される方には清潔を保てるよう支援している。2ヶ月に1回の訪問理美容を利用しパーマやカラーをされている方もいる。		

グループホーム からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行事などで季節を感じられる食事を提供したり、食器拭きやテーブル拭き等、入居者様と一緒にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは栄養士が考えた物を提供している。個々の状態に合わせて量の調整や大きさを工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。出来るところをご本人に行っていただき、必要な部分はお手伝いしている。必要時には歯科医師による往診がある。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、その方の排泄パターンをアセスメントし訴えの少ない入居者様へは時間を決めて声かけ、誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の水分量を記入し把握出来るようにしている。日常の中にラジオ体操や足上げ運動を取り入れ、歩行運動等も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限り入居者様の希望に添った入浴支援を行っている。入浴剤を使用するなど、リフレッシュ出来る環境を作っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの就寝環境に合わせ、照明や温度を調整している。眠れないと不安を訴える入居者様には医療機関に相談し連携を取っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を職員全員が共有出来るようにしている。また、服薬時には見守りをしっかりと行うとともに、服薬マニュアルに沿って誤薬防止に努めておる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様とのコミュニケーションの時間を設けるようにつとめている。毎食後の茶碗拭きや洗濯物たたみをお願いすることにより、入居者様から積極的に作業を行ってくださるようになっていく。		

グループホーム からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染防止対策で外出は制限されているが、車椅子の方も希望があれば建物内を案内したり、他階に行き来出来る支援が出来ている。暖かい日には外へ出て日光浴へお連れ出来るように努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望があれば、御家族と相談し、万が一のリスクなどを十分説明した上で所持されている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば対応している。また、ご家族や友人から届いた手紙などご本人へ手渡しし、いつでも見れる居室などに展示している。また、個人携帯電話を持参されている方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部に作成したディスプレイ等で季節を感じられる展示や、設えをし華やかで心地よい空間作りに努めている。また、浴室と脱衣所の温度差に注意するなど、気を配るように努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その方の相性を把握することにより、席を工夫している。また、共用部には利用者様が気分転換が出来るように、テレビを視たり新聞が読める場所を確保している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室には馴染みの家具や小物、御家族の写真を置く等して、入居者様が安心できる環境作りを行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部にはカレンダーや時計を設けるなど、工夫をしている。残存能力を奪わぬよう、声掛けを工夫している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム からまつ

作成日：令和 5年 2月 26日

市町村受理日：令和 5年 3月 1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	感染症流行の為、最近では消防の指導や住民参加が得られていない。職員の救急救命訓練がしばらく行えていない。	①救命訓練の実施 ②感染症の状況を見ながら、災害時における地域との協力体制の再構築を行う。	①救急救命訓練については、3月実施予定の避難訓練時に動画による講習会を予定 ②感染状況を考慮しながら、近隣の方々や町内会長様へ訓練への参加を呼びかけていく。その際の感染リスクについて、具体的な対策案を作成する。	①2ヶ月 ②6ヶ月
2	4	以前は計画的にテーマを設定していたが、感染対策で書面開催としており報告事項が中心となっていた。	地域密着の特性を活かして、介護や福祉についての相談窓口的な存在になるよう、運営推進会議で情報の発信や情報提供を積極的に行っていく。	開催毎に「お知らせ」だけではなく、介護や地域についての意見交換や勉強会の機会を設けていく。開催の案内郵送時に、その資料を同封し、意見をいただける様にする。	2ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。